

町田市立保育園 乳幼児の感染症一覧表

*感染症にかかった時は保育園にお知らせください。No.1～No.11は登園許可証が必要です。
 *感染症にかかった時の登園については、集団保育が可能かどうか主治医にご確認ください。
 *予防接種については、保健予防課(TEL724-4239)までお問い合わせください。

	病名	予防接種	潜伏期間	感染経路	症状	登園のめやす	留意事項
1	百日咳	有り	7～10日	飛沫感染・接触感染	特有な咳(コンコンとせき込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸うもの)が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。	特有な咳が消失していること又は5日間の適正な抗菌薬による治療が終了していること	生後3か月未満の乳児の場合、呼吸ができなくなる発作(無呼吸発作)、肺炎、中耳炎、脳症等の合併症も起こりやすい。
2	麻疹(はしか)	有り	8～12日	飛沫感染・接触感染 空気感染	高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等の症状がみられる。一時期解熱傾向を示すが、再び上昇し口の中に白いぶつぶつ(コブリック斑)がみられる。その後、顔や頸部に発しん(赤みが強く盛り上がる)が出現。解熱とともに発しんは色素沈着を残して消える。	解熱後3日を経過していること	肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳炎等を合併することがある。感染力が非常に強く、麻疹含有ワクチン接種がきわめて有効な予防手段。
3	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	有り	16～18日	飛沫感染・接触感染	発熱と唾液腺(耳下腺、顎下腺、舌下腺)の腫脹、疼痛。発熱は1～6日間続く。唾液腺は、片側が腫れ、数日後反対側が腫れることが多い。1～3日にピークとなり、3～7日で消える。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること	無菌性髄膜炎、難聴、脳炎・脳症、精巣炎・卵巣炎等の重い合併症の可能性あり。
4	風しん	有り	16～18日	飛沫感染・接触感染	発しんが顔や頸部から全身に広がる。発しんは約3日で消え、色素沈着も残さない。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多い。	発しんが消失していること	妊娠初期に感染すると、胎児に感染して先天性風しん症候群を発症する可能性あり。
5	水痘(水ぼうそう)	有り	14～16日	飛沫感染・空気感染	発しんが顔や頭部に出現し、全身に広がる。斑点状の赤い丘しんから水疱(水ぶくれ)になり、最後は痂皮(かさぶた)になる。	全ての発しんがかさぶたになっていること	妊婦がかかると胎児に影響が出る可能性があるため注意する。接触後72時間以内の緊急的ワクチン接種で発症予防の可能性あり。
6	咽頭結膜熱(プール熱)	無し	2～14日	飛沫感染・接触感染	高熱、扁桃腺炎、結膜炎	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過していること	感染力が強いため、タオルの共有は厳禁。治癒後も長期間、便中にウイルスが排泄されるため、オムツの取り扱いに注意。
7	結核	有り	2年以内 特に6ヶ月以内に多い	主に空気感染	慢性的な発熱(微熱)、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ。	医師により感染の恐れがないと認められていること	
8	髄膜炎菌性髄膜炎	有り	4日以内	飛沫感染・接触感染	発熱、頭痛、嘔吐	医師により感染の恐れがないと認められていること	
9	流行性角結膜炎(はやり目)	無し	2～14日	飛沫感染・接触感染	目が充血し、目やにが出る。幼児の場合、目に膜が張ることもある。	結膜炎の症状が消失していること	感染力が強いため、タオルの共有は厳禁、手洗いの励行。
10	急性出血性結膜炎	無し	1～3日	飛沫感染・接触感染	強い目の痛み、目の結膜の充血、結膜下出血	医師により感染の恐れがないと認められていること	タオルや洗面具は共用しない。手洗いの励行。
11	溶連菌感染症	無し	2～5日	飛沫感染・接触感染	発熱、のどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎。舌が莓状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発しんが出る。指の皮がむけることがある。	抗菌薬内服後24～48時間経過していること	手洗いの励行。症状がおさまっても決められた期間は抗菌薬を飲む。
12	手足口病	無し	3～6日	飛沫感染・接触感染 経口感染	発熱と喉の痛みを伴う水疱(水ぶくれ)が口腔内にでき、手足の末端、おしり等に水疱ができる。爪がはがれることもある。	発熱がなく普段の食事ができること	回復後もウイルスは飛沫や鼻汁からは1～2週間、便から数週～数か月間排泄されるため、オムツの取り扱いに注意。
13	ヘルパンギーナ	無し	3～6日	飛沫感染・接触感染 経口感染	高熱・喉の痛み。高熱は数日続く。熱性けいれんをおこすことがある。口の奥に水疱や潰瘍ができる、喉の痛みが強く飲食ができなくなる。	普段の食事ができること	回復後もウイルスは飛沫や鼻汁からは1～2週間、便からは数週～数か月間排泄されるため、オムツの取り扱いに注意。
14	伝染性膿痂疹(とびひ)	無し	2～10日	接触感染	水疱(水ぶくれ)やびらん、痂皮(かさぶた)が、鼻周囲、体幹、四肢等の全身にみられる。湿しんや虫刺され部位等をひっかいたり、かきむしったりすることで感染する。	浸出液がある場合、ガーゼ等で覆ってあること	爪を短く切り、掻きこわしによる感染拡大を防ぐ。手指を介して周囲に拡大するため十分に手洗いを行う。湿潤部位はガーゼで被覆し、接触しないようにする。治癒するまでプールは禁止。
15	伝染性紅斑(りんご病)	無し	4～14日	飛沫感染	発熱・倦怠感・頭痛・筋肉痛等の軽微な症状の後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出る。	全身状態が良いこと	妊婦がかかると流産や胎児に影響が出る可能性あり。
16	インフルエンザ	有り	1～4日	飛沫感染・接触感染	突然の高熱が3～4日続く。倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛等の全身症状や、咽頭痛、鼻汁、咳等の気道症状を伴う。	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過していること	手洗いの励行。ワクチンは重症化の予防効果あり。咳エチケットに努める。
17	感染性胃腸炎(ロタウイルス感染症) (ノロウイルス感染症)	ロタウイルス有り ノロウイルス無し	ロタウイルス1～3日 ノロウイルス12～48時間	飛沫感染・接触感染 経口感染 食品媒介感染・空気感染	吐き気、嘔吐、下痢(ロタウイルスは白色便であることが多い)、発熱。脱水やけいれんをおこすことがある。	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事ができること	症状が消失した後もウイルスの排泄は3週間以上続くので、便とオムツの取り扱いに注意する。嘔吐物の適切な処理が重要。
18	RSウイルス感染症	無し	4～6日	飛沫感染・接触感染	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難	呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと	乳幼児が初感染した場合は症状が重い。特に生後6か月未満の乳児では、入院が必要となる可能性あり。
19	ヒトメタニューモウイルス感染症	無し	3～5日	飛沫感染・接触感染	4～6日の発熱、鼻汁、咳 (RSウイルスの症状と似ている)	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	乳児では、急性細気管支炎や肺炎となり重症化することもある。
20	新型コロナウイルス感染症	有り	約5日間、最長14日とされてきたがオミクロン株では約3日	飛沫感染・接触感染 エアロゾル感染(空気中を浮遊したものからの感染)	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常など。無症状のまま経過することもある。	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過していること ※無症状の感染者は、検体採取日を0日目とし、5日を経過するまで	手洗いの励行。室内の換気を行う。咳エチケットに努める。